

発行元 / 株式会社あつまるタウン田原 所在地 / 愛知県田原市田原町萱町1  
TEL / 0531-24-2345 HP / <http://www.tahara-tmo.com/>

# 歩ook原 街

街あるつく田原

## 第8号

- よみがえれ権現の森
- 季節を楽しむ山登り
- 山田直弘 さん ~こーひー一家 茶苑~

## よみがえれ権現の森

権現の森育成協議会主催に

よる「集まれ!チビッコ権現の森」が蔵王山展望まつりと同時に開催された。当日は晴天にも恵まれ、ふもとの権現の森には、多くの家族連れや蔵王山頂を目指すハイキング愛好者らの人出で賑わった。

権現の森がここに至るまでの道のりは長かった。昭和30年代、この地は焚き木や山菜の採取の場所として、また子ども達の遊びの場所として付近の住民の生活と深く関わりを持っていたが、その後の社会



情勢や生活様式の変化により、森もしいに住民の生活から遠ざかり、荒れ放題となってしまう。木が生い茂り、下草も刈らないで放置されたため、人が足を踏み入れなくなり、いつの間にか人々に忘れ去られた森となった。

昭和51年秋、このような現状を憂い、次世代の子供たちのために自然を取り戻そうと、田原区と田原青年会議所

が主体となり、蔵王山の南面山麓一帯20ヘクタールを自然と人間との共存の場所として創造しようとして立ち上がった。またその運動を地域ぐるみの運動に発展するようにと考え

全町民的組織「権現の森育成協議会」を設立し、「集まれチビッコ!権現の森」事業を

開始した。

森の中で「自然と人間」「山と子供たち」がどのように共存出来るのか。自然の単なる放置はある意味自然の破壊に繋がる。もし、自然に手を加えるならば、それはより自然を生かす再創造でなくてはならないし、人々が自然と関わりをもつ事こそが森を新しく甦らせる。そのためには、まず誰もが気軽に出かけられる森づくりが原点であり、いつもそうした問いかけを持ち続けながら今後も事業展開が続いている。それらの成果が認めら

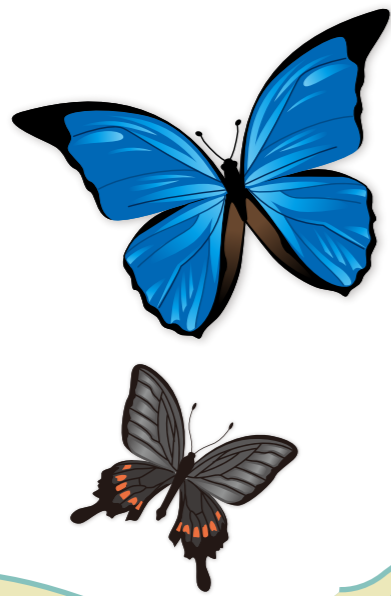


れ、昭和62年に第5回朝日森林文化賞環境緑化部門の奨励賞を受賞した。この受賞は、田原のシンボルである蔵王山の山麓に、誰もが入れられる森を甦らせ、楽しめる広場づくりをしたことが、住民参加の成果として評価されたものである。

今年の蔵王山展望まつりも、多くの諸団体やボランティアの人達に支えられ、盛大の内にと終わった。

今、権現の森は、全町的な組織の長年の実践活動により、市民の憩いの場所として、また、伊良湖岬へ向かう行楽客が立ち寄る観光名所となっている。

# 季節を楽しむ山登り



## 衣笠山

旧田原町内で最高峰。標高 278.4M  
 山頂の岩場には田原神社奥宮が祀られている。この展望台もこの春完成。  
 今回は藤七原湿地から林道を車で。車を置いていざ衣笠山山頂へ。約 20 分で到着。道は舗装されているが、大きな石があったり、傾斜もかなり急坂で、ちょっとハードな登山。  
 でも途中「南の覗き」と言われる箇所があり、そこから眺める景色はとても素晴らしい。是非。  
 そして、展望台からの眺めは、真っ青な三河湾を挟んで蒲郡の街並み、ラグーナ蒲郡の観覧車の姿も見ることが出来る。



## 蔵王山



権現の森から登ること 40 分で山頂へ。  
 2F 売店にて登頂の証に『登頂認定証(無料)』を get!  
 4F 展望室では、360 度の大パノラマ。  
 渥美半島の景色が眺望できます。  
 天気の良い日には『富士山』を見ることも!!  
 ※毎月第 1 日曜日には『お菓子投げ』開催中。



蔵王山頂上へのハイキングコースにもなっている権現の森では、今の時期、～アサギマダラ～の緒の渡りを見る事が出来る。  
 中には羽根にいつ見たのかを記された紙もいるとか。運が良ければその蝶に出会えるかも知れないですね!!



## 越戸の大山

渥美半島の最高峰 標高 327.9M  
 今年の春展望台完成。42 号線を伊良湖方面へ。

越戸運動広場の看板を右折すると「白山比咩神社」の鳥居が見えます。(駐車場 5 台スペース有)  
 山頂まで歩いて約 40 分で登頂。林道は石ころが多く、予想外に急勾配。  
 つづら折り、曲がっても曲がっても同じ風景…とくじけそうな頃、ふと後ろを振り返ると真っ青な太平洋が広がっている。



ここでしばし休憩を。  
 その先は道も整備され、歩きやすい道を進むこと 10 分で展望台。  
 展望台からの眺めは、雄大な太平洋・伊良湖岬・三河湾・表浜・知多半島と 360 度大パノラマが広がっている。

越戸の大山

## 滝頭公園

滝頭公園には数多くの樹木が植栽されており、周囲の山々とのコントラストをかもし出しています。秋も深まる 11 月中旬から下旬には約 5,000 本の紅葉が公園の周辺の山々を染めます。イロハモミジから低木ではドウダンツツジ等、赤や黄色の紅葉が見事です。





# 「終わりになき世界」 「奥深き世界」



田原の企業・お店で活躍されている方を紹介します！

File No.4 こーひ一家 茶苑  
やまだ なおひろ  
山田直弘さん

プロフィール  
1976年生まれ。田原育ち。名古屋経営会計専門学校を卒業。  
昨年(2010年)5月に自宅を改装し「こーひ一家 茶苑」をオープン。



昨年5月、蔵王山ふもとの権現の森公園前に自宅を改装して店舗としてオープン。柱をそのまま使用しているの自分にとっても思いで深い建物となっている。

店の名前「茶苑」は、「茶」は飲み物を表し、「苑」は人が集まって来る。縁があるようにとの思いから名付けたそう。

店主の山田直弘さんのこだわりは「挽きたて」「淹れ立て」「ネルドリップコーヒー」。お客様から注文を受けるとその場で自らが豆を挽き、大切なお客様をもてなす「心」でもって接している。

店内を見渡すと、素敵な花や掛け軸、四季を感じさせてくれる中庭もあり、ゆっくりと落ち着いた大正ロマンの雰囲気を感じ出している。

おすすめのメニューは豆乳を使ったアレンジコーヒー、酢のドリンク、紅茶にもよく合う和風テイストのデザートなど。新メニューの「隠し味に、しょうがの入った和風テイストのチーズケーキ」は、

ありそうで、ないような物をと山田さんが考案。

私どもの店は、立地条件もあり、早朝からのお客様や、昼食時間に森で過ごそうとする人達も多く、モーニングタイム(朝7時~12時まで)にはレギュラーモーニングを含め、常時8種類のモーニングメニューをはじめ、子様にも嬉しい「お子様」を用意して喜ばれている。

またランチタイム(12時~14時まで)は、ミートソースのパスタや豆腐ハンバーグ、サンドイッチの選べる3種のランチと、山田さんのお母さん自慢の「数量限定」手作りハヤシライス」どれもお店の看板メニューとなっている。

山田さんにとつての田原とは、「生まれ故郷であるばかりでなく、自慢できる街、そして住みやすく、戻ってきたくなるような街であり、その思いが茶苑を田原の人に愛される店にしたいと思う気持ちとなって表れている。

深みのある落ち着いた風味を醸し出す山田さんのコーヒー。

彼の目指すコーヒーの世界とは「終わりになき世界、奥深き世界」だそう。 「苦みの中に甘い味のあるコーヒー」こそが美味しいコーヒーと述べる山田さん。それには、常に落ち着いた心でもって淹れる事が出来ない、味に差が出てお客様に満足して頂けなくなる。

お客様の満足は自分自身の満足でもあると考える山田さんは、体調にも気を配りながら、更にお客様に愛される店づくりを目指して頑張っている。

皆さんも紅葉も色づいてくる秋の蔵王山や権現の森を訪ねて、茶苑で山田さんの淹れたコーヒーを頂く。そんな秋の淹れたコーヒーを頂く。そんな秋の淹れたコーヒーを頂く。そんな秋の淹れたコーヒーを頂く。



**こーひ一家 茶苑**  
〒田原市田原町西山口6-12  
☎ 0531-23-2760  
🕒 7:00-18:00  
📅 毎金曜日  
📍 10台有



四季を感じられる中庭

